

2020年9月に実施された噴火湾沿岸の環境調査結果のうち、森（9/4, 9/30）、八雲（9/29）、虻田（9/7, 9/23）、伊達（9/29）の水温・塩分の観測結果をとりまとめました（本情報は函館水産試験場のHPからご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>）。

【水温・塩分の鉛直分布】

30m以浅の水温は19.5～22.0℃、塩分は虻田定点の10m以浅を除けば、32.5～33.4で、鉛直方向の変化が小さい観測結果でした。9/7-8の調査船調査で湾外では表層から底層まで津軽暖流水（水温6℃以上、塩分33.6以上）が分布し、一部は湾内の中層以深に流入していましたが（噴火湾環境情報No. 7参照）、9月の沿岸域の調査では津軽暖流水は確認されませんでした。

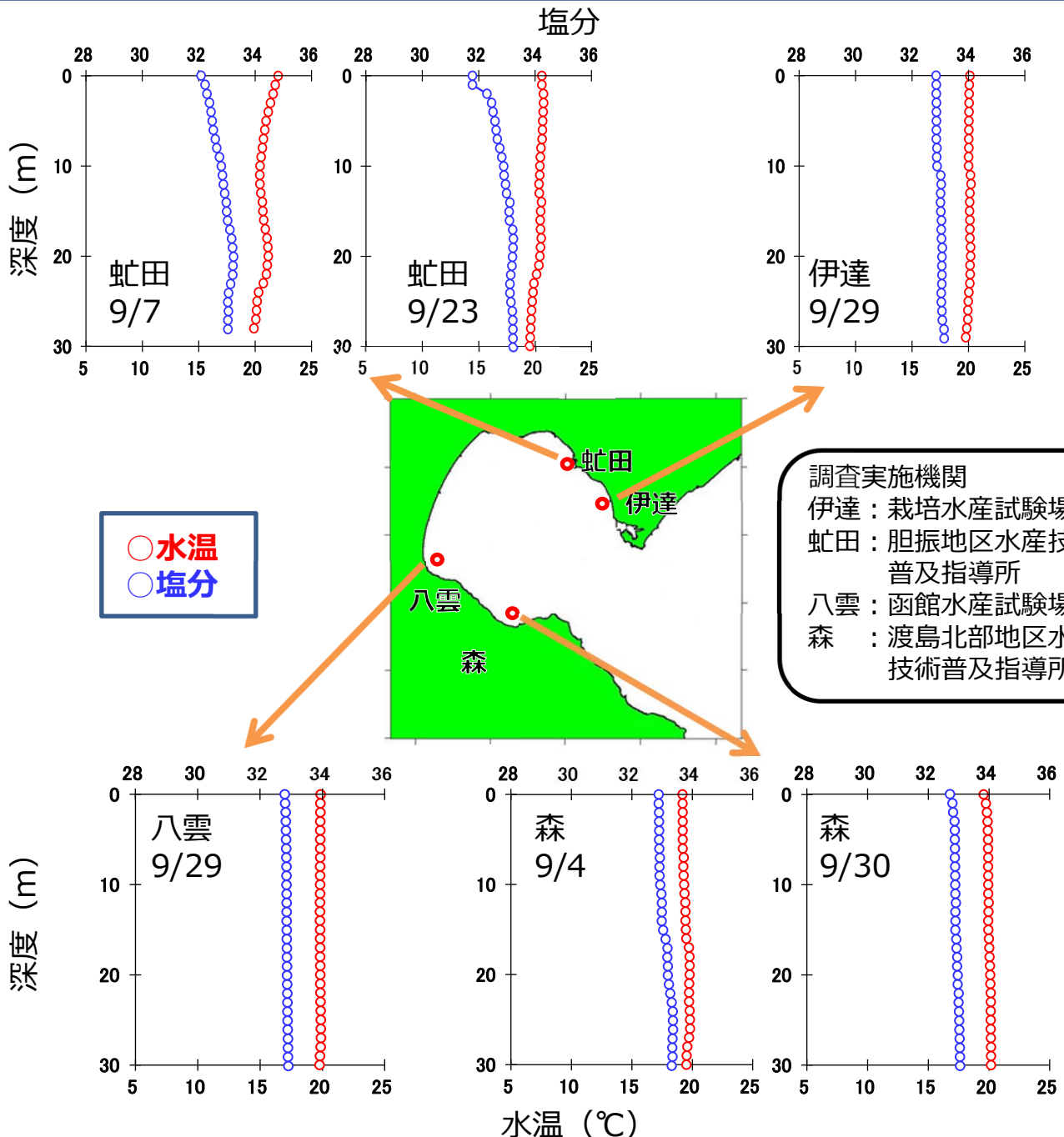


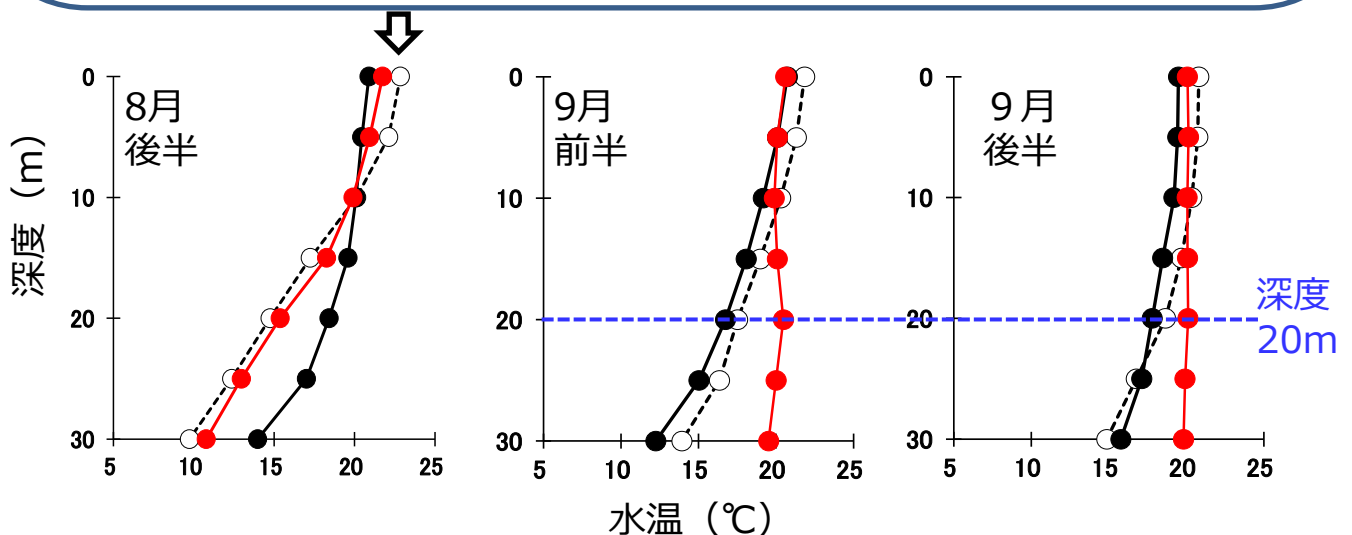
図1 噴火湾沿岸の水温・塩分の鉛直分布

※本調査の一部および情報配信は北海道はたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

【ホタテガイ養殖関係者向け】

【養殖ホタテガイの「稚貝のでき」と夏季の環境条件について】

8月後半～9月後半の「稚貝のできが良かった年」, 「稚貝のできが悪かった年」および2020年の水温鉛直分布を比較しました(図2)。稚貝のできが良かった年は8月後半の深度による水温差が大きく, 成層が強い条件になっています(矢印)。2020年8月後半は「稚貝のできが良かった年」と似た特徴を示しています(噴火湾環境情報No.6参照)。一方, 9月は前半, 後半ともに深度による水温差が例年よりも小さく, 深度20m以深の水温が高くなっていました。過去10ヶ年では2016年が8月後半に深度による水温差が大きく, それが9月に小さくなり, 深い深度の水温が高くなっていました(図3)。2016年は2015年の稚貝のへい死発生以降では最も「稚貝のできが良かった年」です。そのため, 2020年の8月後半～9月後半の水温鉛直分布は「稚貝のできが良かった年」と共通点が多いと言えます。ただし, 今年は7月の水温が過去最高値を記録するなど, 稚貝への影響については不明な要素もあります(噴火湾環境情報No.6参照)。今後稚貝にストレスを与えない作業・管理を心がけてください。



○稚貝のできが良かった年 ●稚貝のできが悪かった年 ●2020年

図2 噴火湾沿岸(森, 八雲, 虻田)の8月後半～9月後半の水温鉛直分布
「稚貝のできが良かった年」および「稚貝のできが悪かった年」の定義については, 噴火湾環境情報No.4を参照ください。

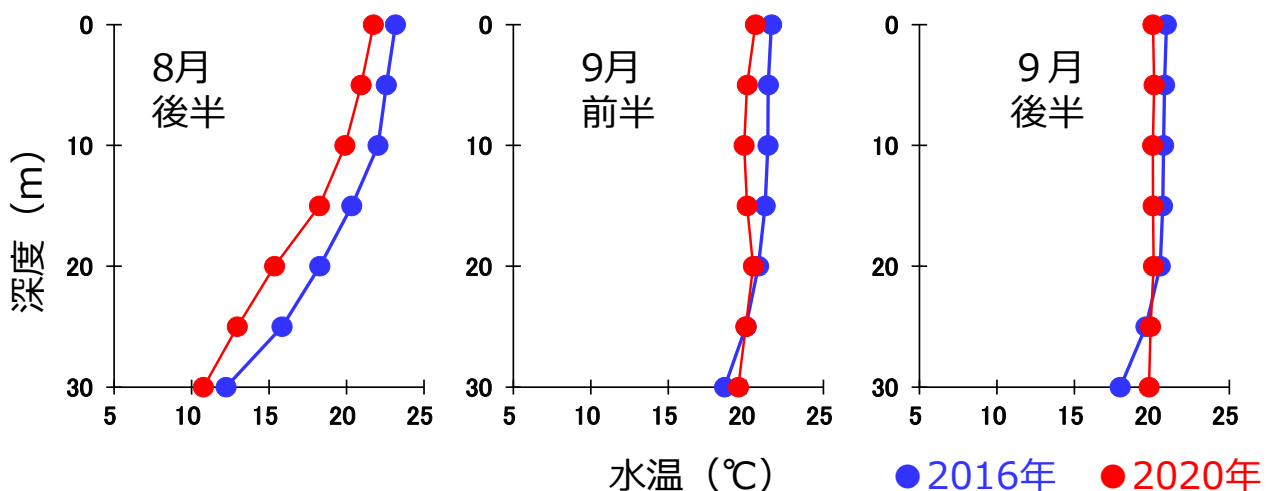


図3 噴火湾沿岸(森, 八雲, 虻田)の2016年及び2020年の水温鉛直分布